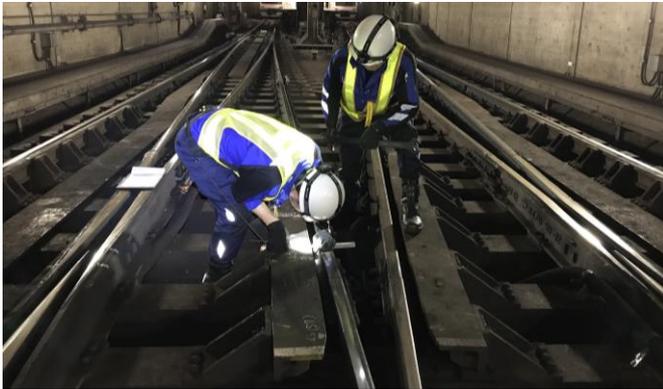


安全報告書

2022 年度



横浜高速鉄道株式会社

ごあいさつ

平素より横浜高速鉄道みなとみらい線をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

横浜高速鉄道では、運行の基本である「安全の確保」は、すべてに優先される最も重要な責務であると考え、安全を最優先とする企業風土の定着に社員一丸となって取り組んでおります。

本報告書は、2022年度の当社における輸送の安全の確保に関する取り組みや、鉄道運転事故等の発生状況と再発防止対策などを報告するものです。

みなとみらい線ではお客様に安心してご利用いただけるよう、運転指令所と乗務員間の情報伝達の安定性を高めるため2022年10月に列車無線をデジタル化しました。また、2023年3月からのワンマン運転に対応するため、車内非常通報の運転指令転送装置、ホームドア侵入防止柵を整備しました。

その他、異常時における対応力向上のための取り組みとして、異常時総合訓練では、列車内における粗暴行為や列車火災の発生、大規模地震の発生を想定し、非常用ドアロックや消火器など非常用設備の操作訓練や列車からの直接降車訓練、避難誘導訓練、転落防止策設置訓練、列車防護訓練などを実施しました。また、運転指令員を対象とした列車一斉停止訓練や、駅係員を対象とした転てつ器の手回し訓練などを行いました。

こうした訓練等を通して、事故・災害に対し社員一人ひとりが迅速かつ的確な初期対応を行い、お客様の安全確保が図れるよう、さらなる安全管理体制の構築に努めてまいります。

この安全報告書は、鉄道事業法第19条の4に基づき、当社における安全の確保に向けた取り組みを皆様に広くご理解いただくために作成いたしました。

是非ご一読いただき、ご意見ご感想をお聞かせいただければ幸いです。

2023年6月



横浜高速鉄道株式会社

代表取締役社長 森 秀毅

目次

● 会社概要	1
● 安全に関する基本方針	2
● 安全管理体制	4
● 安全確保の取組み	6
● 新型コロナウイルス感染症対策	10
● 障害・事故	12
● 安全対策	13
● 営業路線図	16

会社概要

- 名称

横浜高速鉄道株式会社

- 所在地

神奈川県横浜市中区元町一丁目11番地

- 設立

1989年3月29日

- 事業内容

1. 鉄道事業

(みなとみらい21線：第一種鉄道事業者、こどもの国線：第三種鉄道事業者)

2. 鉄道施設内における日用雑貨・飲食物等の販売、飲食業、広告業および旅行業等のサービス事業

3. 不動産の売買、管理および賃貸

4. 前各号に付帯関連する一切の業務

- 経営理念

- 一 私たちは、公共交通機関としての使命を深く自覚し、運行の基本である安全を最優先とし、快適で利便性の高いサービスを提供します。
- 二 私たちは、鉄道事業を通して横浜都心部の活性化や沿線の集客を図るとともに、首都圏の広域的な交通ネットワークの一翼を担います。
- 三 私たちは、健全で安定した鉄道経営を目指します。

安全に関する基本方針

当社では輸送の安全を確保するため、「安全方針」を定め、全社員に周知・徹底を図っております。

●安全方針

1. 常に安全を最優先とし、人命を第一に行動します。
2. 法令・規程等を遵守し、厳正に職務を遂行します。
3. 思い込みや憶測に頼らず、迅速かつ正確に対処します。
4. 気づき合う職場環境をつくるため、コミュニケーションを大切にします。
5. 問題意識を高く持ち、安全マネジメント態勢の継続的改善に取り組みます。

●社員行動規範

1. 企業の社会的使命を認識し、各種法令、規範を遵守し、公正な事業活動につとめます。
2. お客様に安心して、気持ちよくご利用いただける鉄道を目指すため、まず、お客様の視点に立って考えます。
3. 経営情報などの情報を適時、適切に開示します。
4. 事業活動で取得した情報を大切に扱い、社内規定に基づき管理を徹底します。退職後も秘密を保持します。
5. ひとたび事故が起これば、お客様の人命に関わる事業であることを認識し、安全マネジメント体制を確立するとともに、危機意識を持って事に当たります。
6. 環境に配慮した事業活動を行い、環境への負荷を減らし、資源を有効に活用する努力をします。
7. 人権意識を高め、あらゆる差別を廃し、個人を尊重します。
8. 社会的秩序に反する勢力に対しては毅然とした態度で臨みます。
9. セクシュアルハラスメント等差別のない、個人を尊重する働きやすい環境を創ります。
10. 会社は自己実現の場である事を認識し、自ら考え、失敗を恐れず挑戦し、自分の持てる能力を十二分に発揮します。チームとしての力が最大となるよう、和を大切に、誠実に行動します。

●安全重点施策

全社的な安全対策の深度化と安全意識の底上げ

運行支障、施設障害や風水害発生時の連絡、体制、対応の強化を全社的に実施し、安全対策の深度化と個人意識の底上げを図ります。

【キーワード】

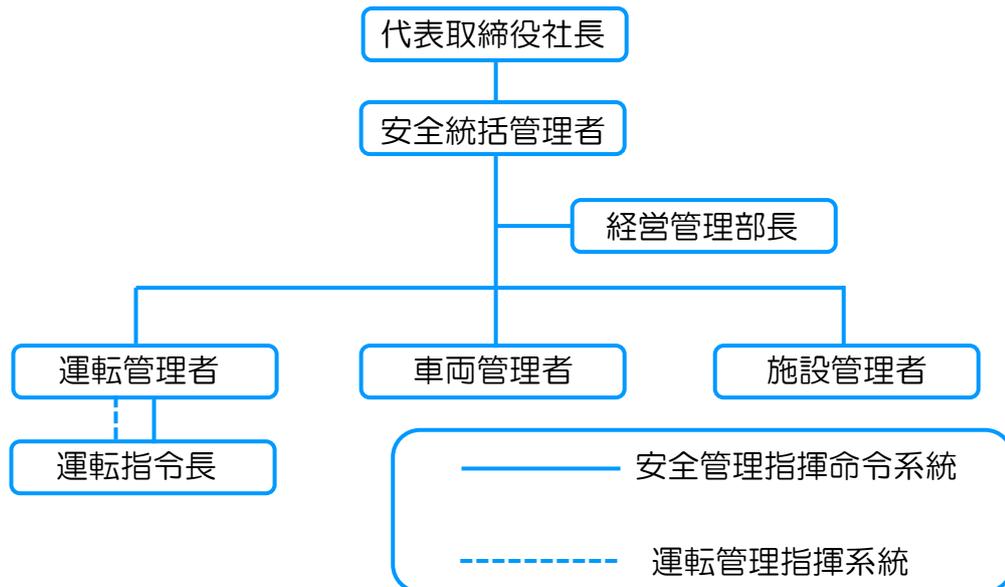
「常に安全を最優先とした対応」

- 自然災害に備えた規程関係の見直し及び周知
- 異常時対応力の向上
- 新型コロナウイルス感染症対策の継続的取り組み

安全管理体制

代表取締役社長を最高責任者として、安全統括管理者をはじめとする各管理者の責務を明確にして安全管理体制を構築し、運輸安全マネジメント態勢の継続と改善に取り組んでいます。

●安全管理体制図



●各責任者の責務

代表取締役社長：輸送の安全の確保に関する全ての責任を負う。

安全統括管理者：輸送の安全の確保に関する業務を統括する。

経営管理部長：輸送の安全確保に必要な設備投資、人事、財務に関する事項を統括する。

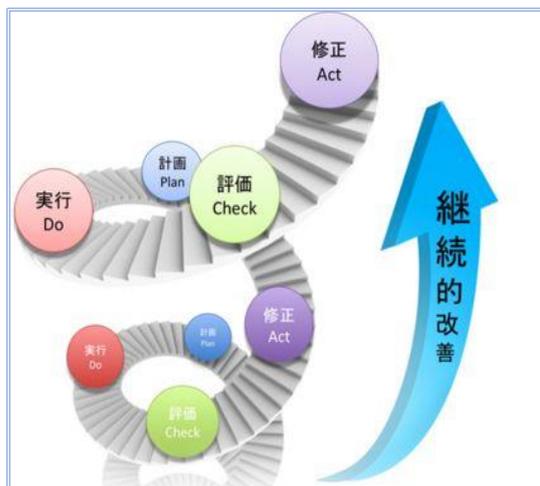
運転管理者：運転に関する事項を統括する。

車両管理者：車両に関する事項を統括する。

施設管理者：鉄道施設に関する事項を統括する。

● 運輸安全マネジメント態勢の継続と改善

安全管理体制のPDCA サイクル



◆ 安全推進会議

安全統括管理者を議長に、経営管理部門、運輸部門の部長、課長および係長がメンバーとなり毎月開催しています。事故・障害の情報共有と原因究明・対策の検討等、安全に関する事項について審議しています。

◆ 運輸安全マネジメント内部監査

監査員は内部監査研修修了者と同等の能力を有する者の中より、安全統括管理者が指名した者で構成し、経営トップ・安全統括管理者・経営管理部長へのインタビューと運輸部門への監査を実施しています。

● 保安監査

2022年7月4日から8日にかけて、国土交通省関東運輸局による保安監査が実施されました。保安監査は、輸送の安全を確保し、利用者の利益を保護するとともに鉄道事業等の健全な発達を図ることを目的に、輸送の安全を確保するための取組み、施設及び車両並びに運転取扱いの状況が適切であるかどうかについて監査するものです。

今回の保安監査では、係員教育の一部改善について指導を受け、適切に対応いたしました。今後も安全安定輸送に努めてまいります。

安全確保の取組み

● 経営トップによる安全講話および現場巡視

2022年12月6日～12月8日に、全社員を対象に社長安全講話を実施しました。安全に係る5つの基本方針や自然災害等への備えについて学び、危機管理の基本的考えや日頃の対策訓練の大切さについて、経営トップの経験を交えた講話を通じて、更なる安全意識の向上に取組みました。

また、夏季および年末年始輸送安全総点検期間中に、経営トップを含む幹部の下で自主点検を実施し、駅や運転指令所等の現業部門への巡視を通して、各部門の安全に対する取組み状況を確認しました。

今後も継続して実施し、安全意識の向上を図ります。



社長安全講話



社長巡視

● 安全統括管理者講話・運転管理者講話

2022年9月5日～9月7日に、全社員を対象に運輸安全マネジメント制度の概要説明、安全統括管理者講話および事故事例紹介を通して鉄道と安全の関わりについて意識付けを行いました。また、過去の駅構内における不審者事件の事例を振り返り、初期対応等について学び、安全方針に沿った行動の重要性を再確認し、安全意識の向上に努めました。

当社の安全管理体制は、全社員が理解して行動するべきものであるため、今後も継続して実施します。



安全統括管理者講話

●異常時総合訓練

2022年11月22日に、重大事故や大規模災害等の発生時において人命を最優先とした基本行動がとれるよう、知識と技能の習得および危機管理能力の向上を目的とした訓練を実施しました。

この訓練では、駅係員、運転指令員および本社員が合同で、「走行中の列車内における粗暴行為の発生」、「列車火災の発生」、「大規模地震発生に伴う列車脱線事故の発生」といった想定で、車内非常用設備の操作や消火器による初期消火、直接降車およびお客様の避難誘導など、異常時における基本行動の確認を行うとともに、AED 取扱い訓練や列車防護訓練を行うことで、緊急事態発生時に重要となる初動や、その後にとるべき行動を共有しました。

今後も様々な想定で訓練を継続的に実施し、事故・災害発生時の知識・技能の向上を図ります。



粗暴行為発生デモンストレーション



消火器使用訓練



直接降車訓練



窓ガラス破損時の対応訓練

●列車一斉停止訓練

2022年9月1日の「防災の日」に、地震発生を想定した列車一斉停止訓練および緊急情報の受発信訓練を行いました。またこれらの訓練を通して、地震発生時の指示方法や連絡通報方法について再確認しました。

今後も継続して訓練を実施し、運転指令員の異常時取扱いについて習熟を図ります。

●保安装置故障時訓練

2022年7月12日～7月14日に、保安装置故障時訓練を想定した訓練を実施しました。本訓練では、転てつ器故障時における対応方の再確認を目的としており、今後も知識、技能の習熟のために定期的に行います。



保安装置故障時訓練の様子

●防潮板・防潮シート取り付け訓練

2022年7月14日に、津波を想定した防潮板・防潮シート取り付け訓練を実施しました。

今後も継続して教育・訓練を実施し、津波等の自然災害の対応方法の習熟を図ります。



防潮板・防潮シート取り付け訓練

●エレベーター閉じ込め救出訓練

2022年12月6日・7日に、元町・中華街駅においてエレベーター閉じ込め救出訓練を実施し、異常時にお客様が閉じ込められた時の救出方法を再確認しました。

今後も継続して教育・訓練を実施し、駅係員の異常時対応を含めた対応方法の習熟を図ります。



エレベーター閉じ込め救出訓練

●他社施設見学

2023年3月14日に、他社事例を学ぶ取組みとして、横浜市民防災センターの見学を実施しました。地震・火災のシミュレータや減災トレーニング等を体験し、鉄道事業者として「安全・安定輸送を担う」自覚と安全への意識向上を図りました。

今後も継続して他社見学等を通じ、安全意識の高揚を図ります。



安全施設見学

新型コロナウイルス感染症対策

「鉄軌道事業における新型コロナウイルス感染症対策に関するガイドライン」等を踏まえ、「密閉」・「密集」・「密接」対策の徹底などに取り組むとともに、鉄道の運行を継続的に確保するため、当社社員の健康維持と感染拡大防止に取り組みました。

【安全な鉄道の利用環境の整備】

● 車両換気の励行



● 車内混雑緩和、分散乗車を目的とした時差出勤やテレワーク実施の呼びかけ



● エスカレーターや階段の手すり、エレベーターボタン、券売機、改札機等、駅施設における定期消毒清掃の実施



● 車内の定期消毒清掃



● 券売機・精算機への整列ラインの設置



● つり革や手すり、座席、空調装置等への車内の抗ウイルス・抗菌コーティング加工の実施



● 全駅にアルコール消毒液の設置



● 券売機・精算機タッチパネルへの抗菌シートの貼付



【鉄道の運行を継続的に維持するための取組】

●健康管理の徹底



●マスクの着用や手洗い・うがい実施の徹底



●テレワークや、時差出勤の実施



●消毒液の携帯と活用



●駅改札窓口の飛沫飛散防止用のビニールシートやアクリルパネルの設置



●ビニールシートやアクリルパネルの無い箇所でのお客様対応時のフェイスガード使用



●不要・不急な出張の自粛、Web会議の実施



●ワクチンの職域接種の実施



障害・事故

●鉄道運転事故（列車脱線事故、鉄道人身障害事故等）

鉄道運転事故は発生しませんでした。

●輸送障害（鉄道に起因する30分以上の遅延や運休等）

輸送障害は発生しませんでした。

●電気事故（感電死傷事故、電気火災事故等）

みなとみらい駅において、作業員がみなとみらい変電所内を点検中に感電してしまいました。

（1）事故種別：感電死傷事故

（2）発生日時：2022年6月5日2時50分頃 支障時間0分

（3）影 響：運休本数0本、影響人員なし

（4）原 因：各盤面の点検作業の流れで誤って作業範囲外の扉を開け、加圧箇所に触れてしまいました。

（5）対 策：①作業前に、危険予知ミーティングにより作業範囲を全員で確認し、作業範囲外のすべての盤扉には「加圧中」の表示を貼付けすることとしました。

②感電防止に特化した安全教育を実施しました。

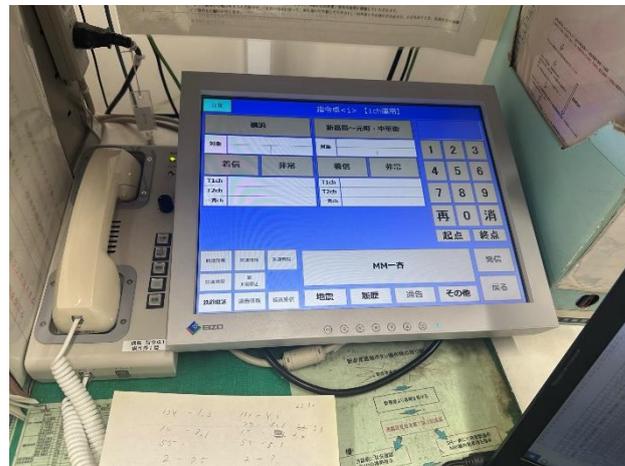
●インシデント（事故の兆候）

インシデントは発生しませんでした。

安全対策

●列車無線のデジタル化

列車無線のデジタル化を行い、運転指令所と乗務員間における情報伝達の安定性向上を図りました。



デジタル列車無線

●ホームドア侵入防止柵、列車内非常通報の運転指令転送装置の整備

2023年3月18日からワンマン運転化に合わせて、可動式ホーム柵と車両の間隔が広がっている箇所に侵入防止柵を、車内に非常事態が発生した時に使用する非常通報装置に、運転士が応答できない場合に運転指令所に転送して、お客様からの通報を確保するよう転送装置を整備しました。



侵入防止柵



転送装置

●可動式ホーム柵

みなとみらい線では、ホームから線路への転落事故やホーム上の列車への接触事故を防止するため、全駅に可動式ホーム柵を設置しております。



可動式ホーム柵

●ATC（自動列車制御装置）

みなとみらい線では、信号保安装置としてATCを採用しています。これは、列車が連続的に速度情報を受信し、走行速度が定められた速度を超えた場合には自動的にブレーキが作動するシステムです。

●Y500系車内防犯カメラ

車内の安全性に対する社会的ニーズが高まるなか、LED 蛍光灯一体型車内防犯カメラを1両あたり4箇所を設置しています。

これにより車内のセキュリティ向上および車内トラブル発生時の対応の迅速化を図っています。



車内防犯カメラ

●AED（自動体外式除細動器）

みなとみらい線では、全駅にAEDを設置し、お客様の救急救命に備えています。



各駅のAED

営業路線図



本報告書に関するお客様のご意見をお寄せください。

「2022年度 安全報告書」の内容や当社の安全への取組みについてのご意見・ご質問は「横浜高速鉄道お客様電話」または「横浜高速鉄道ホームページ」で承ります。

横浜高速鉄道お客様電話

TEL：045-664-0629

（受付時間：平日 AM9:00～PM5:30、土、日、祝日、年末年始（12/29～1/3）を除く）

横浜高速鉄道ホームページ

<http://www.mm21railway.co.jp>

※画面最下部「お問い合わせ」よりご意見をお寄せください。